

第23回・令和2年度 全視連功労者 功績概要

		氏名	功績概要
1	山形県	曾根原 力 そねはら ちから	昭和52年、15人のグループで「南陽8ミリクラブ」を結成、平成11年には同クラブの会長に就任し、現在まで43年間、一貫して郷土をテーマにした自作視聴覚教材を制作し、作品数は70本になる。置賜地区、山形県、全国自作視聴覚教材コンクールに毎年出品入賞している。自作作品の上映会開催や学校、図書館等社会教育施設に自作作品を寄贈し、郷土学習に対する市民への喚起や教材の活用を図っている。また、映像コンクール等のイベントによる地域おこし活動の実践や、置賜各市町をロケ地とした映画製作の現地スタッフとして支援活動も行う等、視聴覚教育の振興と南陽市芸術文化の振興発展に多大の貢献をしている。
2	茨城県	横山 典男 よこやま のりお	昭和50年、公立学校へ赴任。昭和63年、16ミリ映写機操作認定証を取得。平成3年より国立磐梯青年の家へ赴任したことを契機に視聴覚教育との関わりが深まった。茨城県教育庁在職中は、社会教育関係団体の振興に努め、茨城県視聴覚教育振興会とも連携して事業を実践した。また、平成17年より2年間、公立小学校へ赴任した際には、茨城県教育研究会情報教育研究部長として、平成18年度開催の関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会茨城大会の企画・運営を中心となって実施し、大きな成果を収めた。退職後は、茨城県視聴覚教育振興会事務局長として3年間、視聴覚教育・情報教育の振興発展に尽くした。
3	新潟県	服部 裕行 はっとり ひろゆき	昭和51年から平成26年までの38年間、公立中学校教諭・校長として奉職。教諭時代から専門教科の理科教育実践を中心に視聴覚機器・教材を活用した優れた実践を積み重ねてきた。平成元年からは三市南蒲地域視聴覚教育協議会で視聴覚教育主事を務め、視聴覚教材の作成・整備やコンピュータ研修会等を担当した。また、新潟県視聴覚教育研究大会や研究実践校の校内研修会等で指導者を務めた。その後も新潟県立生涯学習推進センターや生涯学習推進課に勤務して研修の企画・推進、システム開発等に尽力し、視聴覚教育の礎となっており、新潟県の視聴覚教育・社会教育の振興に大きな貢献を果たしてきた。
4	愛知県	渡辺 幸人 わたなべ ゆきひと	昭和56年から平成30年まで、公立小・中学校で奉職。昭和62年から、現職教研「現代文化と教育（情報・視聴覚）」部会にて推進員・助言者・部長などを平成28年までの間の12年間務めた。平成元年から、海部津島小中学校視聴覚ライブラリー自作教材制作研修会で講師・理事長を、同7年から3年間、海部郡津島市視聴覚教育特別研究会にて役員を、同8年から3年間、愛知県教育センター教育情報システム視聴覚教育専門部会にて委員を務めた。同26年から2年間、海部地区視聴覚教育研究会会長に就任するなど、関係諸団体の要職を歴任するなど、愛知県や尾張地区、海部地区の視聴覚教育の推進に大いに寄与した。
5	大阪市	前川 弘 まえかわ ひろむ	昭和48年、大阪市16ミリ映画社会教育協議会会員となり、以後現在まで22年間にわたり、社会教育の質の向上のため各区で地域活動や指導者の育成、教材制作、映画の普及活動などを実施してきた。その後、16ミリ映画だけではなくビデオなど視聴覚教材の適正な利用の促進を図ることを目的に大阪市視聴覚教育協議会と改名し、平成22年には同協議会会長に就任し、現在に至る。平成26年には大阪市旭区地域振興会会長に就任するなど、関係諸団体の要職を歴任。視聴覚教育を通じて地域の諸団体間の連携を深め、奉仕活動を実践するなかで、視聴覚教育の知識・技能を普及することに多大な貢献を果たしている。
6	北九州市	角田 将勝 かくた まさかつ	平成15年、北九州市立視聴覚センター主催の16ミリ映写機操作技術講習会を受講し、同時に北九州市A・V・Eの会に入会、現在まで17年間活動を行っている。同会は昭和52年に発足、16ミリの映写講習を修了した同志の映写ボランティア団体であったが、会員の増加に伴い組織を7つの区会に細分化し、子ども会・町内会・自治会などで上映活動を実施。平成21年には同会門司区会副会長に、翌年には本部理事に就任し、会の運営と後輩の映写技術指導も行っている。80歳になる現在でも、各所を訪問し映写会を開催するなど、視聴覚教育の推進や青少年の健全育成に果たした役割は大きく、他者の範となるものである。